

市長提案説明要旨

令和7年6月6日

本日ここに令和7年第2回鹿嶋市議会定例会の開会に当たり、当面の事業概要並びに提出しました議案などのご説明を申し上げます。

《事業の概要等》

まず、鹿嶋市のまちづくりの実績と当面の事業概要について、ご説明申し上げます。

(暮らしやすく、生きがいのあるまち鹿嶋／多様性を理解し共に生きる)

○こども誰でも通園制度の開始

保護者の方の就労要件などを問わず、普段保育園などに通っていない生後6か月から2歳までのお子さんが、時間単位で保育園などを利用ができる新たな制度「こども誰でも通園制度」が、令和8年度から全国で本格的にスタートします。

本市では、本格実施に先立ち、7月から公立保育園1施設において試行的に運用を開始し、月10時間以内の定期的な預かりを行うことで、集団生活の機会を通じたお子さんの育ちを応援するとともに、保護者のリフレッシュや子育ての相談の機会を創出し、子育て支援の充実を図ってまいります。

○デフリンピック気運醸成イベント in 鹿行

大野ふれあいセンターにおいて5月10日、「デフリンピック気運醸成イベント in 鹿行」が、鹿行聴覚障害者協会、茨城県聴覚障害者協会、茨城県手話通訳問題研究会及び鹿行5市の共催のもと開催されました。

デフリンピックとは、オリンピック・パラリンピックと並ぶ、耳がきこえない・きこえにくい人のための国際的なスポーツの大会であり、11月に「東京2025デフリンピック」として日本で初開催となります。

イベント当日は、映画「みんなのデフリンピック」の上映のほか、各種競技に関するミニ講演会、スタートランプ体験などが実施され、悪天候にも関わらず100名以上の方にご来場いただき、大盛況のうちにイベントを終えることができました。

まだまだ市民の皆さんには情報が行き届いていないことから、市としましても今後も、引き続き関係機関と連携しながら、東京デフリンピックの周知に努めていくとともに、この大会の開催を通じ、きこえない人・きこえる人が互いの違いを認め、尊重し合い、誰もが個性を活かし、力を発揮できる地域共生社会づくりを進めてまいります。

(元気で賢い鹿嶋っ子育成／共に学び成長しながら生きる)

○小中一貫教育の取り組み

本市は、9年間の連続した学びを通じて「確かな学力」と「豊かな人間性」を育むことを目指し、小中一貫教育を推進しております。平成30年度に、高松小・中学校をパイロット校として一貫教育を開始し、小中学校の教員による乗り入れ授業、小中合同のコミュニケーション英語、小学校高学年の部活動体験、交流事業などを実施してきました。これらを通して、児童生徒の学力向上や心の育成が図られ、中学校1年生が環境の変化になじめない「中1ギャップ」の解消にも効果が認められました。

また、その他の学校においても、令和5年度から中学校区を1つのグループとする小中一貫教育を2年間試行し、本年4月から、市内すべての学校で本格的に開始したところです。

この小中一貫教育の実践をより明確にし、各中学校区のつながりや一体感を醸成するため、現在、中学校区毎にグループ名として「学園名」をつける準備を進めています。準備が整い次第、市民の皆さんに公表し、広くご理解とご協力をいただけますよう努めてまいります。

○学校規模の適正化について

少子化による児童生徒数の急激な減少が学校教育へ及ぼす影響に迅速かつ適切に対応し、本市が目指す学校教育を効果的に実現するために、昨年、独自に学校規模の最低基準を設けた「鹿嶋市学校規模適正化基準」を策定しました。

現在、この基準に該当する2つの小学校において、学校規模の適正化に向けた具体的な協議を始めたところです。

今後は、児童生徒の教育条件の改善の観点を中心に据え、学校の在り方について、保護者、先生方、地域の皆さんなど、各学校関係者と真摯に議論を進め、未来を見据えた教育環境の充実に努めてまいります。

○中央図書館開館40周年記念事業の開催

本年10月、中央図書館は、開館40周年を迎えます。図書館ではこの節目を記念し、「40年の歩み」と題した企画展示や、図書館キャラクターの名前を市民の皆さんから投票で決定する企画など、さまざまな催しを実施し、市民の皆さんと一緒にこの特別な年を盛り上げてまいります。

この記念事業を通じて、多くの皆さんに図書館の魅力を再発見し、図書館への愛着や親しみを持っていただくとともに、今後も、引き続きご利用いただけるよう努めてまいります。皆さまのご参加を心よりお待ちしております。

(暮らしやすく、生きがいのあるまち鹿嶋 行財政改革／スマート＆コンパクトな鹿嶋をつくる)

○令和6年度ふるさと納税実績及びふるさとチョイスアワード2024受賞について

ふるさと納税に関する業務や施策を専門的に扱う部署を新設し2年目となる令和6年度のふるさと納税受入額は、目標額3億円のところ、総額で3億5,854万2千円、鹿島アントラーズと共同実施したクラウドファンディングを除いた分で2億8,741万5千円となりました。

令和6年度は、従来の返礼品開発とあわせ、「選ばれる鹿嶋市づくり」のための応援・共感ブランディングを行ってきました。その成果として、鹿島中学校の生徒の皆さんと地元事業者がビジネスパートナーとなって返礼品を創り出した取り組みを「ふるさとチョイスアワード2024」に初めてエントリーしたところ、審査員であるフリーアナウンサー兼ジャーナリストの有働由美子さんの目にとまり、見事「こども未来賞」を受賞することとなりました。これは、ふるさと納税制度を活用して、市民の皆さんと一緒に地域活性化に取り組んだことが評価されたものと認識しております。

引き続き、ふるさと納税を自主財源の確保の手段だけに留めず、地域の課題解決・活性化に繋がる手段として取り組んでまいります。

○鹿嶋市総合防災訓練の開催

隔年で実施している「鹿嶋市総合防災訓練」を7月6日に、豊郷公民館及び豊郷小学校を会場として実施します。

今回の総合防災訓練は、大型台風やゲリラ豪雨などによる北浦の氾濫及び洪水を想定し、洪水ハザード地区を対象に実施するもので、災害対策本部を設置し、災害対応の中心的な役割を担う市職員の収集伝達訓練と、市民の皆さんを対象とした避難訓練を行います。

また、地元の消防署や警察署をはじめ、自衛隊、災害時の応援協定を締結している企業の皆さんなどにご協力をいただき、洪水を想定した幅広い防災・減災対策についての展示や体験エリアを開設し、市民の防災に対する理解と防災意識の向上につなげてまいります。

大雨や洪水、地震、津波などの自然災害は、こうした訓練や、日頃からの備えを充実させることで、被害を最小限に抑えることが可能であると考えておりますので、多くの市民の皆さんへの参加をお願いいたします。

○第二期鹿嶋市空家等対策計画の策定

近年、地域における人口減少や既存の住宅・建築物の老朽化、社会的ニーズの変化などに伴い、空家などが年々増加しております。

令和5年に実施された住宅・土地統計調査では、本市の空き家率が20.6%と推計され、県内市町村と比べても非常に高い値を示しています。

これまで、平成29年3月に第一期空家等対策計画を策定し、総合的に対策を講じてきたところですが、さらなる空家の発生の抑制と、空家などの利活用促進、また、管理不全の状態となってしまった空家などに対し、適切に対処するため、本年度から令和11年度までの5年間を計画期間とする第二期空家等対策計画を策定しました。

行政のみならず、民間事業者との連携強化による空家などの利活用を図るなど、効果的な対策を講じてまいります。

《提出議案等》

次に、提出しました議案についてご説明申し上げます。

提出議案は、予算関係議案が2件、条例関係議案が1件、その他の議案3件の合わせて6件であります。

予算関係議案は、まず令和7年度一般会計の補正予算であります。

一般会計補正予算については、老人福祉施設等整備費補助金などによる老人福祉施設等助成事業や施設改修工事費による観光施設管理費などの補正であります。

国民健康保険特別会計については、総務費の補正であります。

条例関係議案は、「鹿嶋市総合福祉センターの設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例」であります。

その他の議案は3件で、「財産の減額譲渡について」などであります。

私の説明は以上で終わりますが、予算以外の議案については、総務部長から補足説明をいたします。

お手元の議案書によりご審議のうえ、適切な議決を賜りますようお願いいたします。